令和４（２０２２）年度　開講科目の授業題目・内容と担当教員

目　　次

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
２２００１	外国語仏教学論著講読	落合　俊典　教授	３
２２００２	外国語仏教学論著講読	斉藤　　明　教授	４
２２００３	外国語仏教学論著講読	池　　麗梅　教授	５
２２００４	外国語仏教学論著講読	デレアヌ　フロリン　教授	６
２２００５	外国語仏教学論著講読	幅田　裕美　教授	７
２２００６	外国語仏教学論著講読	藤井　教公　教授	８
２２００７	論文指導	落合　俊典　教授	９
２２００８	論文指導	斉藤　　明　教授	１０
２２００９	論文指導	池　　麗梅　教授	１０
２２０１０	論文指導	デレアヌ　フロリン　教授	１１
２２０１１	論文指導	幅田　裕美　教授	１１
２２０１２	論文指導	藤井　教公　教授	１２
２２０１３	仏教文献学方法論	落合　俊典　教授	１３
２２０１４	仏教文化学方法論	宮本　久義　講師	１４
２２０１５	南・東南アジア仏教文献学研究	デレアヌ　フロリン　教授	１６
２２０１６	南・東南アジア仏教文献学演習	デレアヌ　フロリン　教授	１７
２２０１７	南・東南アジア仏教文献学演習	Anne MacDonald　客員教授	１８
２２０１８	内陸アジア仏教文献学研究	斉藤　　明　教授	１９
２２０１９	内陸アジア仏教文献学研究	幅田　裕美　教授	２０
２２０２０	内陸アジア仏教文献学演習	斉藤　　明　教授	２１
２２０２１	内陸アジア仏教文献学演習	幅田　裕美　教授	２２
２２０２２	東アジア仏教文献学研究	落合　俊典　教授	２３
２２０２３	東アジア仏教文献学研究	池　　麗梅　教授	２４
２２０２４	東アジア仏教文献学研究	藤井　教公　教授	２５
２２０２５	東アジア仏教文献学演習	落合　俊典　教授	２６
２２０２６	東アジア仏教文献学演習	池　　麗梅　教授	２７

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
２２０２７	東アジア仏教文献学演習	藤井　教公　教授	２８
２２０２８	近現代仏教研究 （仏教学と生命倫理）	土山　泰弘　講師	２９
２２０２９	近現代仏教研究 （仏教学と環境問題）	土山　泰弘　講師	３０
２２０３０	文化人類学	棚橋　　訓　講師	３１
２２１０１	仏教学特殊研究（夏学期）	藤井　教公　教授（代表）	３３
２２１０２	仏教学特殊研究（冬学期）	斉藤　　明　教授（代表）	３４
２２１０３	日本語Ⅰ	宮田　聖子　講師	３５
２２１０４	日本語Ⅱ	宮田　聖子　講師	３６
２２１０５	古文・漢文読解Ⅰ	田戸　大智　講師	３７
２２１０６	古文・漢文読解Ⅱ	小島　裕子　講師	３８
２２１０７	サンスクリット語	宮本　久義　講師	４０
２２１０８	古典チベット語	斉藤　　明　教授	４１

専門科目

科目番号	２２００１
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
時限	木曜日５時限目
担当教員氏名	落合　俊典　教授
授業題目	Stuart H.Young, *Conceiving the Indian Buddhist Patriarchs in China* 講読
授業の目的・概要	本書は、近年の新出資料を多用して中国仏教に受容されたインド仏教の賢聖、すなわち著名な学僧の伝承の足跡を検証する研究書である。馬鳴・龍樹・提婆・世親等の伝記資料が用いられている。本書の講読によって中国仏教界がインド仏教の賢聖をどのようにイメージしていたかを探る。
到達目標	本書が取り上げている問題点を整理して、中国思想界が外夷のインド仏教を受容した根本問題を解明する。中国の文化的土壌とその思想的変遷を把握できるようにすることが目標である。
授業計画	夏学期 1.-3. ：欧米の中国仏教観（Zürcher Erik.と Stuart H.Young） 4.-6. ：本書輪読：序論 Introduction 7.-10. ：第 1 章 Buddhist Sainthood in Dharmic History 11.-15 ：第２章 An Indian Lineage Severed 冬学期 1.-5. ：第３章 Salvation in Writing and the Annex of Indian Buddhism 6.-8.：第４章 Nāgārjuna Divine and the Alchemy of Hagiography 9.-11.：第５章 An Indian Silkworm God in China 12.-14：第６章 Buddhist Saints to Bridge the Sino-Indian Divide 15. まとめ ：Conclusion
授業の方法	本書で論述されている内容を概観し、その問題点を摘出し、討論する。また本書が取り上げた文献資料を随時参照し、講読する。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	Stuart H.Young“*Conceiving the Indian Buddhist Patriarchs in China* ”Studies in East Asian Buddhism Book 24. Hawaii.Univ.2015.
参考文献	『七寺古逸経典研究叢書』第５巻、大東出版社。1998 年。 Zürcher Erik *The Buddhist Conquest of China*, Leiden. E.J.Brill.1959.
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	コロナウイルス感染等、やむを得ない状況により、適宜オンライン授業で行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２００２
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
時限	金曜日５時限目
担当教員氏名	斉藤　　明　教授
授業題目	Hirakawa Akira (Paul Groner tr.), *A History of Indian Buddhism* 講読
授業の目的・概要	本書は平川彰『インド仏教史』上巻の英訳である。律蔵を中心とする初期仏教研究を専門とし、アビダルマ教学および大乗仏教思想に精通し、大乗仏教の成立論にも大きな一石を投じた著者の仏教研究は、今なお仏教学におけるかけがえのない道標となっている。本書は、著者の積年の研究成果を凝縮した本格的な入門書でもあり、日本仏教研究者として知られる訳者の英訳も適確で読みやすい。本講義では、とくに仏教術語の現代語訳（英訳、日本語訳）をめぐる諸問題を分析・考察しながら授業を進める。
到達目標	仏教の教理と歴史の概要を英文で読み、考え、的確に理解することを目ざす。
授業計画	夏学期 1 Introduction 2-3 Ch.1 Indian Religion and the Time of the Buddha 4-6 Ch.2 The Life of the Buddha 7-10 Ch.3 Early Buddhist Doctrine 11-12 Ch.4 The Organization of the Order 13-15 Ch.5 The Establishment of the Early Buddhist Canon 冬学期 1-2 Ch.6 The Development of the Buddhist Order 3-4 Ch.7 The Buddhism of King Aśoka 5-8 Ch.8 The Development of Nikāya Buddhism 9-11 Ch.9 Abhidharma Literature 12-15 Ch.10 The Organization of the Dharma in the Abhidharma
授業の方法	講義と演習を交えながら講読を行う。必要な関連資料は、随時配布する。参考文献ならびに関連研究は授業の中で紹介する。授業は英語を基本とするが、必要に応じて日本語でも対応する。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価。
テキスト	Hirakawa Akira, tr. and ed. by Paul Groner, *A History of Indian Buddhism: From Śākyamuni to Early Mahāyāna*, Delhi: Motilal Banarsidass, 1991.
参考文献	授業の中で紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には３時間、復習には１時間の時間をかけること
履修上の注意	コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２００３
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
時限	金曜日２時限目
担当教員氏名	池　麗梅　教授
授業題目	陳垣著『中国仏教史籍概論』講読
授業の目的・概要	本書は中国六朝以降の歴史を研究する上で必要不可欠とされる仏教史籍を分類・概観したものである。本書の講読によって、中国史研究の資料としての仏教史籍の重要性を理解し、更に仏教史籍の梗概を通じて中国仏教史全体を俯瞰することを目的とする。
到達目標	本書を講読することによって、受講者が中国仏教史の基礎文献を体系的に理解し、個々の仏教史籍に対して独自の視点と問題意識を持って調査・研究を深めていけるようになることが目標である。
授業計画	夏学期 第 1 回　　概説 第 2-8 回　『高僧伝』 第 9-15 回　『続高僧伝』 冬学期 第 1 回　　概説 第 2-8 回　『輔教編』 第 9-15 回　『伝法正宗記』
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻訳するだけではなく、その記述内容を分析して問題点を指摘した上で、関連研究の現状ならびに今後の展望についての受講者自身の考えも踏まえて発表してもらいたい。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）またはレポートにて通年で評価。
テキスト	陳垣著・西脇常記&村田みお訳『中国仏教史籍概論』、東京：知泉書館、2014 年。
参考文献	陳垣著・西脇常記&村田みお訳『中国仏教史籍概論』、東京：知泉書館、2014 年。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	積極的な授業参加が望まれる。担当者は発表原稿を人数分用意すること。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２００４
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
時限	月曜日４時限目
担当教員氏名	デレアヌ　フロリン　教授
授業題目	Indian Buddhism: Monastic life and history
授業の目的・概要	The seminar is intended to give a glimpse into representative chapters and aspects of the monastic life and historical background of Indian Buddhism. For this, we shall read in the original language(s) and modern translation(s) testimonies of the actual life and religious practice of Indian monks and nuns in various communities across Asia. This year we shall focus on two major figures. In the summer semester, we shall read about Dharmakṣema's and Buddhabhadra's lives, training and activities as recorded in the *Biographies of Eminent Monks*. Over the winter semester, we shall look into *An Account of the Buddhist Teaching Sent Home from the Southern Seas* by Yijing.
到達目標	-- Gain knowledge of the history, life and institutions of the Indian Buddhist tradition and the basic terminology associated with it. -- Familiarise oneself with the academic English style used in Buddhist studies. -- Improve English language skills (focusing on intensive reading while also paying attention to listening, speaking, and writing abilities). -- Improve reading and translation skills from canonical languages.
授業計画	**Summer Semester 夏学期** (1) Overall aim and methodology (2)-(3) Historical and philological background of the *Biographies of Eminent Monk*s (4)-(9) Readings: Dharmakṣema's Biography (T 50. 335c-337a) (9)-(14) Readings: Buddhabhadra's Biography (T 50.334b-335c) (15) Students' presentations **Winter Semester 冬学期** (1) Yijing's life and work (2)-(4) Readings: *An Account of the Buddhist Teaching Sent Home from the Southern Seas:* Śākyamuni's Life (T 54.204c-205c) (5)-(9) Readings: *An Account of the Buddhist Teaching Sent Home from the Southern Seas*: The First Buddhist Schools (T54.205c-205b) (10)-(14) Readings: *An Account of the Buddhist Teaching Sent Home from the Southern Seas*: Hīnayāna, Mahāyāna, and Vinaya differences (T54.205c-206a) (15) Students' presentations
授業の方法	In classes (1) to (3) in the Summer Semester and in class (1) in the Winter Semester, I shall give lectures on the subjects mentioned above. The last class in each semester is reserved for students' presentations. In the rest of the classes, students are expected to prepare in advance the materials scheduled to be read and analysed.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	Huijiao, *Gaoseng zhuan* (Tang Yongtong ed.) Yijing, *Nanhai jigui neifa zhuan* (Wang Bangwei ed.) (Handouts and/or pdfs of materials will be distributed in class.)
参考文献	Tokiwa Daijō transl. *Ryō Kōsō den* Yoshikawa Tadao, Funayama Tōru transl. *Kōsō den* Robert Shih transl. *Biographies des moines éminents* Li Rongxi transl. *Buddhist Monastic Traditions of Southern Asia* Miyabayashi Shōgen, Katō Eiji transl. *Naikai kiki naihō den*
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習：２時間 復習：２時間
履修上の注意	Participants must have basic knowledge of English and Classical Chinese. （コロナウイルスの感染等、止むを得ない状況により、適宜オンラインで授業を行うことがあります。）
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２００５
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
時限	火曜日３時限目
担当教員氏名	幅田　裕美　教授
授業題目	Dieter Schlingloff, Ein buddhistisches Yogalehrbuch 講読
授業の目的・概要	本書は中央アジアに伝承されたサンスクリット語の瞑想修行の教科書である。本書の講読によって瞑想修行の実践を概観し、断片資料からテキストを校訂する方法を学ぶ。
到達目標	厳密な文献研究の方法を理解することを目標とし、あわせてドイツ語の研究書を使いこなせるようにすることを目ざす。
授業計画	夏学期 第 1 回　概説 第 2 回　中央アジア写本読解の基礎 第 3–5 回　テキスト伝承の歴史 第 6–15 回　テキスト内容の概観 冬学期 第 1 回　第 I 章講読 第 2–3 回　第 II 章講読 第 4–5 回　第 III 章講読 第 6 回　第 IV 章講読 第 7 回　第 V 章講読 第 8 回　第 VI 章講読 第 9–10 回　第 VII 章講読 第 11–12 回　第 VIII 章講読 第 13 回　第 IX 章講読 第 14–15 回　第 X 章講読
授業の方法	テキストで論述されている内容を概観し、問題点を議論する。研究対象となっている文献については適宜、原典をあわせて参照し、講読する。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	Schlingloff, Dieter 1964: Ein buddhistisches Yogalehrbuch. (Sanskrittexte aus den Turfanfunden 7). (Deutsche Akademie der Wissenschaften zu Berlin. Institut für Orientforshcung. Veröffentlichung 59). Berlin: Akademie-Verlag, 1964 (Unveränderter Nachdruck der Ausgabe von 1964 unter Beigabe aller seither bekannt gewordenen Fragmente. hrsg. Jens-Uwe Hartmann und Hermann-Josef Röllicke. Buddhismus-Studien 5. München: Iudicium, 2006).
参考文献	授業の中で紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２００６
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読　　４単位
時限	木曜日２時限目
担当教員氏名	藤井　教公　教授
授業題目	Kazuo Kasahara ed., A History of Japanese Religion 講読
授業の目的・概要	本書は日本の宗教について、仏教を中心にその歴史から教理の概要までを概説した書である。大部ではあるが文章は平明で内容的にも信頼が置ける。本書を講読することによって日本仏教形成の過程と、その発展、さらにその基盤としての日本宗教思想全体についての理解を深めることを目的とする。
到達目標	テキストは日本の宗教全般について、とりわけ日本仏教史の概説書としては内容的にかなり詳細な記述がなされているので、本書を講読することによって新知見を増し、さらにそこから発展して受講者自身がテキストを素材として関連トピックを見つけ、文献資料を渉猟調査し、研究することによって自身の問題意識を拡充することを目標とする。
授業計画	前期第 1～第 15 週までに第 9 章 The Zen Sect の第一節 The Rinzai Sect 中の第 4 項 Gozan Culture（p. 235）から第 6 項の The Myoshin-ji Group（p.244）までを講読する予定である。 後期第 16 週～第 30 週の間に第 9 章末（p.254）までを講読の予定。
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて講読する。単にテキストを読んで訳すだけでは意味がないので、担当者はテキストの記述内容自体について、あるいは、それに関連する事項、またその背後にある問題について、自身が考え、調べたものを発表してもらいたい。 また、コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うこともあり得るので注意が必要である。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）にて通年で評価。オンライン授業の場合における課題提出も評価に加える。
テキスト	教場でコピーを配布する。
参考文献	教場でテキストの内容ごとにその都度指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること。
履修上の注意	出席励行のこと。担当者は発表原稿を人数分用意する。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２００７
科目名・単位数	論文指導　　４単位
時限	火曜日４時限目
担当教員氏名	落合　俊典　教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆におけるテーマ設定から内容の指導、体裁、参考文献の取り扱い方、提出までに必要な事項等を教授する。
到達目標	仏教文献学の方法を習得すること。仏教文献は様々な言語で書かれていることから基本的言語の習得の上に研究テーマを設定し、論文を書けるようになることが目標である。
授業計画	最初に研究テーマの設定に関して討論を重ね、具体案作成へ向けて、いくつかのレポートを作成していく。次いで受講生は、先行研究論文を読破し、先行研究の問題点についてレポートの提出が求められる。このレポートを基に新たな観点や新知見の可能性について論議検討し、研究テーマの絞り込みに努める。夏学期：①研究論文の書き方。②研究の方法論。③研究資料の探索方法。④外国語文献の探索方法。⑤研究テーマの選定。⑥複数の研究テーマ。⑦研究テーマのデッサン。⑧研究チャートの作成。⑨研究文献のフィールドワーク。⑩研究テーマ討論。⑪研究テーマ変更の方法。⑫研究会の案内。⑬学会の案内。⑭発表の方法。⑮発表。討論。冬学期：①発表と討論の方法。②討論の文句。③先行研究の徹底的解読。④外国語先行研究の解読方法。⑤当該研究者の見つけ方。⑥文字資料の扱い方。⑦活字本と刊本。⑧刊本と写本。⑨写本の読解方法。⑩写本の所在。⑪写本の探索方法。⑫写本に関する書誌学的知識。⑬文献学。⑭文献学の確立。⑮発表と討論
授業の方法	受講生の研究してきたレポートについて適宜問題点を指摘し、レヴェルアップを図る。また重要資料を図書館その他から取り寄せ、その解読を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。
成績評価方法	平常点（論文指導への積極参加）にて通年評価
テキスト	研究テーマが定まり次第テキストや先行研究論文の集成の指導を行う。
参考文献	研究テーマ決定に従って参考文献を探索する。参考文献の探し方についても指導を行う。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２００８
科目名・単位数	論文指導　４単位
時限	火曜日４時限目
担当教員氏名	斉藤　　明　教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆に際してのテーマの設定、研究に必要な資料や参考文献の収集、適切な研究方法などを指導する。
到達目標	学位論文に関する毎回の報告と指導を踏まえ、関連する学術論文の作成方法を学んだ上で、学位論文の完成を目ざす。
授業計画	夏学期 1 導入と解説（論文とは何か：目的、方法等） 2 論文のルール 3 学位論文のテーマ設定をめぐって 4-15 報告と議論、および指導 冬学期 1 進行状況の報告と展望 2-15 報告と議論、および指導
授業の方法	学生が用意してきたレポートや研究の部分的な成果をもとに、コメントと質疑応答、ならびに討論を交えながら授業を進める。
成績評価方法	平常点により、通年で評価。
テキスト	必要に応じて授業の中で指示する。
参考文献	授業の中で紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には５時間、復習には１時間の時間をかけること。
履修上の注意	論文の完成に向けた地道な取り組みが期待される。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２００９
科目名・単位数	論文指導　４単位
時限	木曜日５時限目
担当教員氏名	池　麗梅　教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に向けて、研究テーマ、問題の設定、論文の構成、研究の方法、必要な文献、原典の翻訳・解釈などにわたって、個別に指導する。
到達目標	合理的な研究計画に従って、研究の方法を習得しながら、学位論文の完成を目指す。
授業計画	研究テーマによって、個別に協議検討した上で決定する。
授業の方法	論文執筆者が準備段階ごとに提示する研究成果（問題意識も含めて）をもとに、コメント、討論、または助言などを行う。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要なテキストを用いる。
参考文献	論文執筆者の研究テーマに関連する文献を網羅的に点検し、必要に応じて助言を行う。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること。
履修上の注意	合理的な研究計画の立案と、研究遂行に向けた地道な取り組みが望まれる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０１０
科目名・単位数	論文指導　４単位
時限	金曜日５時限目　水曜日５時限目
担当教員氏名	デレアヌ　フロリン　教授
授業の目的・概要	PhD tutorials are designed to help doctoral students to prepare and write their theses. Apart from reading and analysing primary and secondary sources, students are required to submit papers reflecting the progress of their work three times per semester. We shall also explore together specific problems and methodological strategies.
到達目標	Each semester must be a clear step (measurable in number of pages) in the process of writing the MA or PhD thesis.
授業計画	To be decided with each individual student
授業の方法	We shall combine presentations done by the students with critical analysis and reading together difficult passages.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	To be decided with each student
参考文献	To be decided with each student
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習：２時間 復習：２時間
履修上の注意	The MA thesis should be a solid study (together with an edition and translation of relevant passages), clearly argued and showing familiarity with the research topic. The PhD thesis must be an original contribution to a particular subject in Buddhist studies based upon meticulous philological and historical work. （止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。）
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０１１
科目名・単位数	論文指導　４単位
時限	木曜日４時限目
担当教員氏名	幅田　裕美　教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に必要な方法を習得することを目的とする。テーマの設定、研究史の把握、必要な文献の選択、文献解読の方法、写本読解の方法、批判テキストの分析方法などを指導する。
到達目標	仏教研究に必要な基礎能力を身につけ、学位論文を完成することを目標とする。
授業計画	受講生の学問的関心と研究テーマにそって、個別に相談し、決定する。
授業の方法	受講生の関心と研究テーマについて議論し、その研究テーマにふさわしい文献を選択する。研究テーマと文献に関する研究史を調査し、論文の内容と構成を決定する。論文の進捗段階に合わせて、論文原稿を議論する。
成績評価方法	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
テキスト	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要なテキストを用いる。
参考文献	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要な参考文献を用いる。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	積極的な問題意識を持って、論文の完成に向けて地道に取り組むことが望まれます。 コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０１２
科目名・単位数	論文指導　　４単位
時限	水曜日２時限目
担当教員氏名	藤井　教公　教授
授業の目的・概要	学位論文執筆のためのテーマの選択から、執筆完成に至るまでの全過程における事柄について指導し、教授する。論文テーマの選定、先行業績の調査、文献資料の渉猟と蒐集の方法、選定資料の読み込み、執筆内容の吟味などについて、受講者のそれぞれのテーマ、それぞれの段階に応じて指示し、論文の完成を目指す。
到達目標	受講者それぞれの修士論文、博士論文の完成を目指す。
授業計画	第 1〜5 講　テーマの選択・設定に関する指導 第 6〜9 講　テーマに関わる先行業績文献資料の読み込み 第 10 講以降　執筆内容の吟味と指導
授業の方法	授業日、授業時間はあらかじめ設定されてはいるものの、受講者との話し合いにより、双方の都合で決定する。そのためあらかじめの打ち合わせが必要である。また、コロナウイルス感染状況に応じて、対面式授業からオンライン方式に切り替えることもありうる。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）にて通年で評価
テキスト	受講者各自が論文作成のために取り上げた文献資料、及びテーマに応じた必須文献資料を用いる。
参考文献	執筆論文の内容に応じて、その都度指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には３時間、復習には１時間の時間をかけること。
履修上の注意	毎回、指導時間をあらかじめ担当教員と打ち合わせること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０１３
科目名・単位数	仏教文献学方法論　　４単位
時限	火曜日３時限目
担当教員氏名	落合　俊典　教授
授業題目	『御製秘蔵詮』巻六本文と絵解きの研究
授業の目的・概要	『御製秘蔵詮』30 巻は北宋の太宗（939～997）が撰述した仏教概論書であるが、各巻に描かれた画像は精巧を極め北宋時代の美術的到達点の高さを物語る。しかし、本文とその画像との関連性についての考察が十分なされているとは言えない。ハーバード大学に所蔵されている巻六は高麗初雕版と言われている。本文と画像の関連性を探っていく、謂わば「絵解き」的研究を通じて仏教文献を解明していく方法を習得する。
到達目標	諸本校訂を行い、諸本の系統を確定した上で本文の解読を進めていく。『御製秘蔵詮』が成立する背景を探るため経典等の出典考証を行い、ついで丁寧に読解して正確な訳を付すことが目標である。
授業計画	夏学期 1.-3. ：『御製秘蔵詮』概論 4.-6. ：同書巻六について 7.-10. ：巻六（１）輪読＆討論 11.-15 ：巻六（２）輪読＆討論 冬学期 1.-5. ：巻六（３）輪読＆討論 6.-8. ：巻六（４）輪読＆討論 9.-11.：その他の巻（A）の輪読＆討論 12.-14：その他の巻の輪読（B）＆討論 15. ：まとめ
授業の方法	各自分担して本文の読解を行い、発表する。画像との関係を皆で討論し、内容理解に努める。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	ハーバード大学所蔵高麗初雕版『御製秘蔵詮』巻六 CBETA テキスト。
参考文献	・小林宏光、江上綏『南禅寺所蔵『秘蔵詮』の木版画』（山川出版社、1994.9） ・杉山裕俊「開宝蔵について一『開宝遺珍』所収の『御製秘蔵詮』を中心に一」（『仏教文化学会紀要』2017(26),1-23） ・瀧本弘之「中国古版画散策（第 13 回）御製秘蔵詮：皇帝の仏教礼賛につけられた異形の風景版画」（東方 Eastern book review(420),16-19,2016-02）
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０１４
科目名・単位数	仏教文化学方法論　　４単位
時限	集中講義（夏・冬学期）　※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	宮本　久義　講師（元東洋大学　教授）
授業題目	道をめぐるインド文化論
授業の目的・概要	人はなぜ移動するのかという問題は、人間の歴史的・文化的営為を読み解くための重要なポイントであり、道はそのキーワードのひとつであると考えられる。道は、民族移動の道、交易の道、巡礼や求法の道、文化伝播の道、民族独立の道などさまざまな要素を持っている。いろいろな地図を見ながら、そこにあらわれるさまざまな歴史と文化の問題を一緒に考えていきたい。 釈尊ブッダの求道と伝道の道や、法顕・玄奘・義浄など求法僧の辿った道を手始めに、スリランカやアフガニスタンへの仏教の伝播などを概説する。また、仏教の八大霊場と比較する意味で、ヒンドゥー教の聖地の分類やその特徴を考察しつつ、仏教とヒンドゥー教の複合的聖地であるカイラーサやヴァーラーナスィーの現在の聖地信仰の実態にも触れる。さらに、イブン・バットゥータの『三大陸周遊記』やマルコ・ポーロの『東方見聞録』、鄭和の西洋下りの記録『瀛涯勝覧』などを資料として、イスラーム世界やキリスト教世界、中国世界とインドの繋がりにも触れる予定である。
到達目標	インドを中心とする南アジアを対象として道の文化史を考えるとき、そこにはその地域的特殊性とともに、全世界に共通する普遍性も浮かび上がってくるであろう。それらを理解し、地理・歴史と文化・思想が緊密に結びつく様相を分析・考察できるようになることを目標としたい。
授業計画	夏学期 第 1 回：南アジアのトポロジー 第 2 回：先史以来の道の動態・古代インドの道 第 3 回：ブッダの求道と伝道の道 第 4 回：仏教の八大霊場 第 5 回：　『法顕伝』とその関連資料 第 6 回：法顕の求法の旅の目的とたどった道 第 7 回：　『南海寄帰内法伝』とその関連資料 第 8 回：義浄の求法の旅の目的とたどった道 第 9 回：『大唐西域記』とその関連資料 第 10 回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(1) 第 11 回：　『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(2) 第 12 回：『大唐西域記』における地名同定の問題点 第 13 回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(1) 第 14 回：　『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(2) 第 15 回：　日本における聖地巡礼 冬学期 第 1 回：ヒンドゥー教の宗教思想 第 2 回：ヒンドゥー教の聖地 第 3 回：プラーナ聖典における「マーハートミヤ」 第 4 回：ブッダガヤーとガヤー 第 5 回：ヴァーラーナスィーとサールナート(1) 第 6 回：ヴァーラーナスィーとサールナート(2) 第 7 回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(1) 第 8 回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(2) 第 9 回：中世インドを旅した人々 第 10 回：イスラームの来た道 第 11 回：イブン・バットゥータの『三大陸周遊記』 第 12 回：マルコ・ポーロの『東方見聞録』 第 13 回：キリスト教の来た道 第 14 回：フランシスコ・ザビエルの伝道 第 15 回：総括

授業の方法	こちらで用意した配布資料をもとに講義を進めていく。漢文やサンスクリットの原典を使用するときには、できるだけわかりやすく解説する。
成績評価方法	平常点にて通年で評価。
テキスト	教場にて（オンライン授業の場合は添付ファイルで）資料を配布する。
参考文献	小西正捷・宮本久義編『インド・道の文化誌』春秋社、1995 年 水谷真成訳『大唐西域記』平凡社、1972 年 義浄撰、宮林昭彦・加藤栄司訳『南海寄帰内法伝』法藏館、2004 年 長沢和俊訳註『法顕伝・宋雲行紀』平凡社、1975 年 馬歓著、小川博訳注『瀛涯勝覧』吉川弘文館、1969 年 その他、講義中に適宜教示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習・復習ともに 120 分程度の時間をかけてほしい。
履修上の注意	講義中は常にインドの地図を参照し、インドの地理と文化が徹底的に頭に入るように努力していただきたい。 ※コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインで授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０１５
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学研究　　４単位
時限	月曜日３時限目
担当教員氏名	デレアヌ　フロリン　教授
授業題目	Key philosophical themes in the *Laṅkāvatārasūtra*
授業の目的・概要	We shall read and analyse key passages from the *Laṅkāvatārasūtra*, a late Mahāyāna scripture which has left a major imprint on the development of Buddhist thought and spirituality across Asia. Doctrinally, the text develops ideas mainly associated with the Yogācāra-Vijñānavāda school, to which it adds tenets typically associated with the Tathāgatagarbha current. After an overview of the philological, historical, and philosophical background of the text, we shall read and translate passages from the Sanskrit original and compare it to the Tibetan and Chinese versions as well as to modern renderings into Japanese, English, etc.
到達目標	-- Understand the peculiarities and development of the *Laṅkāvatārasūtra*. -- Gain detailed knowledge of the basic tenets and their historical background. -- Hone philological skills (editing, translating, annotating) necessary to work with primary sources. -- Improve knowledge of Sanskrit, Classical Tibetan, Classical Chinese, and Classical (Kundoku) Japanese.
授業計画	**Summer Semester 夏学期** (1) Overall aim and methodology (2) Introduction to the *Laṅkāvatārasūtra*: Primary sources, modern translations, and secondary literature (3) Introduction to the *Laṅkāvatārasūtra*: Formation, historical background, and key doctrines and practices (4)-(9) Readings: *Laṅkāvatārasūtra* (Nanjio ed. 220-222 and corresponding Chinese and Tibetan translations) (10-(14) Readings: *Laṅkāvatārasūtra* (Nanjio ed. 97-98 and corresponding Chinese and Tibetan translations) (15) Students' presentations **Winter Semester 冬学期** (1)-(8) Readings: *Laṅkāvatārasūtra* (Nanjio ed. 229-234 and corresponding Chinese translation) (9)-(14) Readings: *Laṅkāvatārasūtra* (Nanjio ed. 234-239 and corresponding Chinese translation) (15) Students' presentations
授業の方法	In classes (1) to (3) in the Summer Semester, I shall give lectures on the subjects mentioned above. The last class in each semester is reserved for students' presentations. In the rest of the classes, students are expected to prepare in advance the materials scheduled to be read and analysed.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	B. Nanjio ed. *The Laṅkāvatāra Sūtra* 實叉難陀譯『大乘入楞伽經』 (Handouts and/or pdfs of materials will be distributed in class.)
参考文献	Daisetz Teitaro Suzuki, *Studies in the Lankavatāra Sūtra* Takasaki Jikidō 高崎直道, *Ryōga kyō* 楞伽經 (佛典講座 17) Takasaki Jikidō 高崎直道, *Daijō ki shin ron, Ryōga kyō* 大乘起信論・楞伽經 F. Deleanu, 'The *Laṅkāvatārasūtra*: A Bibliographical Survey'
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習：２時間 復習：２時間
履修上の注意	The participants must have basic knowledge of English, Sanskrit, and Classical Chinese (as well as preferably Classical Tibetan). （止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。）
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０１６
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習　　４単位
時限	月曜日５時限目
担当教員氏名	デレアヌ　フロリン　教授
授業題目	Abhidharma scholastics and yogic practices in the *Śrāvakabhūmi*
授業の目的・概要	We shall read passages from the *Śrāvakabhūmi*, a treatise giving ample presentation of the meditative practices and theories of the Sarvāstivāda-related Śrāvakayāna yogis. In spite of its original affiliation, the *Śrāvakabhūmi* was later incorporated into the *Yogācārabhūmi*, the huge foundational text of the Yogācāra-Vijñānavāda tradition and contributed to the formation of the Yogācārin system of spiritual cultivation.
到達目標	-- Deepen knowledge of Buddhist philology and canonical languages -- Build up the skills necessary for critical editions and annotated translations. -- Deepen the understanding of the Buddhist teachings and practices in their historical development.
授業計画	**Summer Semester 夏学期** (1) The *yogācāra* tradition and the formation of the Yogācāra school (2) Introduction to the *Śrāvakabhūmi*: Sanskrit manuscript, Indic script, editions of primary sources, translations, and secondary literature. (3) Introduction to the *Śrāvakabhūmi*: formation, historical background, and key doctrines and practices (4)-(9) Readings: *Śrāvakabhūmi* (Shukla ed. 6.13-8.10 and corresponding Chinese and Tibetan translations) (10)-(14) Readings: *Śrāvakabhūmi* (Shukla ed. 8.10-10.11 and corresponding Chinese and Tibetan translations) (15) Students' presentations **Winter Semester 冬学期** (1)-(8) Readings: *Śrāvakabhūmi* (Shukla ed. 10.11-13.1.and corresponding Chinese and Tibetan translations) (9)-(14) Readings: *Śrāvakabhūmi* (Shukla ed. 13.1-16.19 and corresponding Chinese and Tibetan translations) (15) Students' presentations
授業の方法	In classes (1) to (3) in the Summer Semester, I shall give introductory lectures on the subjects mentioned above. The last class in each semester is reserved for students' presentations. For the rest of the classes, students are expected to prepare in advance the materials scheduled to be read and analysed. We shall read the text in Sanskrit and Classical Chinese comparing it with the Tibetan translation whenever necessary. Attention will also be paid the doctrinal content, tracing various ideas and practices to their canonical roots and Abhidharmic developments and discussing their influence on later Buddhist texts.
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	声聞地研究会　1998　『瑜伽論 声聞地 第一瑜伽処–サンスクリット語テキストと和訳–』 K. Shukla ed. *Śrāvakabhūmi of Ācārya Asaṅga* F. Deleanu, *The Chapter on the Mundane Path (Laukikamārga) in the Śrāvakabhūmi: A Trilingual Edition (Sanskrit, Tibetan, Chinese), Annotated Translation, and Introductory Study* (Handouts and/or pdfs of materials will be distributed in class.)
参考文献	For bibliographical data, see Deleanu 2006. Updates will be given in the seminar.
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習：２時間 復習：２時間
履修上の注意	The participants must have good knowledge of at least Sanskrit and Classical Chinese. Knowledge of Classical Tibetan and Classical (*kundoku* style) Japanese will also come in handy. Furthermore, good knowledge of English is important. （止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。）
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０１７
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習　　２単位
時限	集中講義　※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	Anne MacDonald　客員教授（オーストリア科学アカデミー研究員）
授業題目	The Profound Dependent-Arising
授業の目的・概要	The concept of "dependent-arising" (Pāli *paṭiccasamuppāda*; Skt. *pratītyasamutpāda*; Tib. *rten cing 'brel bar 'byung ba*) occurs in early canonical Buddhist works primarily in connection with a 12-linked, less often a 10-linked, stereotypical formula that was understood as an analysis of rebirth and its causes. Later developments, specifically in the Abhidharma schools, broadened the scope of dependent-arising to include the external world: it was explained that all things depend on causes and conditions inasmuch as they come into being in reliance on these. Madhyamaka scholars utilized the earlier expositions on dependent-arising when speaking about the everyday level of reality (*saṃvṛtisatya*), but in discourses on ultimate reality (*paramārthasatya*), they set forth a radical reinterpretation of the law of dependent-arising, one which in the end denied the true reality of the things accepted on the everyday level. The course will primarily focus on Nāgārjuna's and Candrakīrti's views on the topic.
到達目標	The course aims to acquaint students with the historical development of the concept of dependent-arising and to introduce them to and/or refine their understanding of – on the basis of a close reading of primary texts – the Madhyamaka school's reinterpretation of it.
授業計画	1. Introduction 2. Continuation of Introduction; Dependent-arising in the Pāli Canon 3. Dependent-arising in Conservative Buddhism 4.-5. Reading MMK 4 (*kārikā*s only) 6. Reading MMK 5 (*kārikā*s only) 7. Introduction to MABh, Reading MABh 8. -14. Reading MABh 15. Reading MABh and Concluding Remarks
授業の方法	Lecture, text reading, discussion
成績評価方法	平常点にて各学期で評価 [Based on class performance]
テキスト	1) *Mūlamadhyamakakārikā*　2) Draft critical edition of the *Madhyamakāvatārabhāṣya* (passages from chapter 6), to be made available at the beginning of the course
参考文献	de La Vallée Poussin, Louis. *Madhyamakavṛttiḥ: Mūlamadhyamakakārikās (Mādhyamikasūtras) de Nāgārjuna avec la Prasannapadā Commentaire de Candrakīrti*.　Bibliotheca Buddhica 4.　St. Pétersbourg 1903-1913. de La Vallée Poussin, Louis. *Madhyamakāvatāra par Candrakīrti. Traduction Tibétain*. St. Petersburg: Imperial Academy of Sciences, 1907–1912. Huntington, C.W.　*The Emptiness of Emptiness. An Introduction to Early Indian Mādhyamika*. Honolulu: University of Hawaii Press, 1989. Siderits, Mark & Katsura, Shoryu.　*Nāgārjuna's Middle Way. Mūlamadhyamakakārikā*. Boston: Wisdom Publications, 2013. Ye, Shaoyong. *Zhunglunsong: Fanzanghan Hejiao, Daodu, Yizhu* [Mūlamadhyamakakārikā: New Editions of the Sanskrit, Tibetan and Chinese Versions, with Commentary and a Modern Chinese Translation]. Shanghai: Zhongxi Book Company, 2011.
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	(a) Preparation: 120 min (b) Revision/review: 120 min
履修上の注意	The participants must have good knowledge of at least Sanskrit and Classical Chinese. Knowledge of Classical Tibetan and Classical (*kundoku* style) Japanese will also come in handy. Furthermore, good knowledge of English is important. （止むを得ない状況により、オンライン授業を行うことがあります。）
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０１８
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究　　４単位
時限	金曜日２時限目
担当教員氏名	斉藤　　明　教授
授業題目	インド大乗仏教思想史研究
授業の目的・概要	周知のように、非有非無や不苦不楽の中道説は、仏教思想の基本的な立場を表明する。＜縁起＞を根拠にしたこの中道説は、2~3 世紀のナーガールジュナ（龍樹）によってその意義が再認識され、『中論』を起点とする「中観」思想をもたらすことになる。4~6 世紀には大乗仏教を代表する部派となった瑜伽行・唯識学派と、6 世紀以降のインド仏教史に多大な影響力をもった中観学派の両学派が、一面では、中道の本家争いともいえる活発な論議を展開した。この授業では、瑜伽行派の思想を基礎づけたヴァスバンドゥ（世親 400-480 頃）作『唯識三十頌』およびスティラマティ（安慧 510-570 頃）の注釈にみる唯識説とその関連思想を、テキストを精読しながら講義する。
到達目標	インド大乗仏教思想史を適確に理解することを目ざす。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2 ＜中道＞理解をめぐる瑜伽行・唯識派と中観派 3-15『唯識三十頌釈』*Triṃśikāvijñaptibhāṣya* 講読 冬学期 1-15 『唯識三十頌釈』*Triṃśikāvijñaptibhāṣya* 講読
授業の方法	講義と関連テキストの講読を中心とし、必要に応じて関連資料を配布して利用する。積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価する。
テキスト	H. Buescher, *Sthiramati's Triṃśikāvijñaptibhāṣya*. ÖSW 768, 2007. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	梶山雄一他「唯識三十論」『世親論集』（大乗仏典 15）中央公論社,1976. 桂紹隆他編『唯識と瑜伽行』（シリーズ大乗仏教 7）春秋社, 2012. 斎藤明他編『空と中観』（シリーズ大乗仏教 6）春秋社, 2012. その他は、授業の中で随時紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には３時間、復習には１時間の時間をかけること
履修上の注意	丹念な予習・復習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０１９
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究　　４単位
時限	火曜日４時限目
担当教員氏名	幅田　裕美　教授
授業題目	菩薩の諸相
授業の目的・概要	さとりを求める存在としての菩薩が仏典においてどのような意味と役割をもつかを、多面的に検討する。
到達目標	インドの諸言語および翻訳（チベット語訳・漢訳など）の性格を把握し、文献分析の基礎的方法を理解し、的確な内容分析能力を習得する。
授業計画	夏学期 第 1 回　　概説 第 2–6 回　ジャータカ文献における菩薩 第 7–15 回 大乗仏典における菩薩 冬学期 第 1 回　　概説 第 2–8 回　菩薩の十地と修行 第 9–15 回 菩薩戒
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、質問や疑問を出し合って、それぞれのテーマについて議論を深める。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	授業の中で紹介する。
参考文献	授業の中で紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	授業に積極的に参加し、十分な学術知識の習得に努めることが望まれます。コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０２０
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習　　４単位
時限	水曜日２時限目
担当教員氏名	斉藤　　明　教授
授業題目	インド仏教思想関連文献講読
授業の目的・概要	インド仏教思想史上の主要なテキストを講読する。今年度は、昨年度に引き続き、中観学派を確立したバーヴィヴェーカの主著『中観心論』*Madhyamakahṛdayakārikā* の中の第 4「声聞の真実確定［説］への［批判的］入門」章を、注釈『論理炎論』*Tarkajvālā* を参照しながら講読する。同章は著者が展開する大乗仏説論、および注釈において詳説される部派分裂史に関する資料としても貴重である。同章の内容と背景を分析・解説しながら、丹念に読み進める。サンスクリット語文法に関する基礎知識が望まれる。
到達目標	サンスクリット語で著された仏教論書の読解力を身につけるとともに、的確な内容理解を目ざす。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2-15『中観心論』*Madhyamakahṛdayakārikā* 第 4 章講読 冬学期 1 導入と解説 2-14『中観心論』*Madhyamakahṛdayakārikā* 第 4 章講読 15 総括
授業の方法	演習形式を基本とし、それぞれの文献の内容および研究史に関する解説を交える。授業では、テキストの読解ならびに内容に関する積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価。
テキスト	・Chr. Lindtner, *Madhyamakahṛdayam of Bhavya*, Adyar: The Adyar Library and Research Centre, 2001. ・M. D. Eckel, *Bhāviveka and His Buddhist Opponents*, Harvard Oriental Series 70, 2008. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	・斎藤明「中観思想の成立と展開」『空と中観』（シリーズ大乗仏教６）春秋社, 2012, pp. 3-41. その他は、授業の中で随時紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には４時間、復習には１時間の時間をかけること
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０２１
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習　　４単位
時限	木曜日２時限目
担当教員氏名	幅田　裕美　教授
授業題目	Lalitavistara 講読
授業の目的・概要	仏伝文学として知られる Lalitavistara を諸漢訳と対照して読み、文献の伝承の歴史を理解する。
到達目標	仏教サンスクリット語の読解力をつけ、諸資料を読解分析する能力を身につけることを目的とする。
授業計画	夏学期 第 1 回　Lalitavistara 文献概説 第 2 回　テキスト校訂の方法論 第 3 回　仏教サンスクリット語概説 第 4–15 回　Lalitavistara 講読 冬学期 第 1–15 回　Lalitavistara 講読
授業の方法	テキストを講読し、漢訳との対応を分析し、問題点を議論する。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	*Lalitavistara*, ed. S. Lefmann, Halle 1902–08. 外薗幸一『ラリタヴィスタラの研究』東京（大東出版社）1994–2019.
参考文献	授業の中で紹介する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	丹念な予習と復習が望まれます。 コロナウイルス感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０２２
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究　　４単位
時限	火曜日５時限目
担当教員氏名	落合　俊典　教授
授業題目	「不入蔵」経典および未入蔵経典（録外）の研究―『迦葉経』・『行七行現報経』・『尼提因縁経』―
授業の目的・概要	「不入蔵」経典は『開元録』から始まるが、「不入蔵」という呼称は『貞元録』から見られる用語である。入蔵録から削除すべき経典類になるが、この「不入蔵」目録所載の経典を書写したのが日本仏教の特質でもある。ただ、現存するのは七寺一切経だけである。しかも「不入蔵」目録所載経典の過半に達しない。その中から数点を選び経典流伝史の１頁を埋めていく研究である。
到達目標	本講で扱う文献は従来知られていなかった文献が多い。『尼提因縁経』なる古写経が芥川龍之介の短編と関連する形跡が認められたならばこれは仏教と文学とのテーマにもなる。そのような未知の文献を解明する方法を習得することが到達目標である。
授業計画	夏学期 1.-3. ：「不入蔵」目録と「録外」目録の定義 4.-6. ：「不入蔵」目録所載『迦葉経』に見られる序文 7.-10. ：「不入蔵」目録所載『行七行現報経』とその典拠経典 11.-15 ：その他の不入蔵送録所載経典 冬学期 1.-5. ：七寺一切経の録外経典『尼提因縁経』 6.-8. ：『尼提因縁経』の典拠経典 9.-11.：『尼提因縁経』と『今昔物語集』 12.-14：尼提と芥川龍之介『尼提』 15. ：まとめ
授業の方法	「不入蔵」の定義を講義で説明した後、古写経（複写）を分担して解読する。それを発表し討論して内容の理解を深めていく。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	七寺本『迦葉経』、同『行七行現報経』、同『尼提因縁経』。
参考文献	『今昔物語集』。芥川龍之介『尼提』。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２２０２３
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究　　４単位
時限	金曜日３時限目
担当教員氏名	池　麗梅　教授
授業題目	漢文大蔵経史研究―10～13 世紀
授業の目的・概要	東アジア仏教にとって、漢文大蔵経を中心とする漢文仏教典籍はその思想文化の源流であり、また常に思想・信仰上の拠りどころ、基盤であり続けてきた。この授業では、漢文大蔵経の歴史を俯瞰した上で、特に 10 から 13 世紀にかけて現れた刊本大蔵経を中心に、それらの成立・変遷や、周辺諸国への伝播と後世への影響などについて、体系的に解説する。
到達目標	10～13 世紀の漢文大蔵経史を俯瞰的に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 第 1-3 回　漢文大蔵経史の概観 第 4-8 回　福州版大蔵経の研究史 第 9-13 回　東禅寺版大蔵経の雕造史 第 14-15 回 ディスカッション・総括 冬学期 第 1 回　復習と概説 第 4-8 回　開元寺版大蔵経の雕造史 第 9-13 回　福州版大蔵経研究の展望 第 14-15 回 ディスカッション・総括
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、必要に応じて参考資料も配布する。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）またはレポートにて通年で評価。
テキスト	野沢佳美『印刷漢文大蔵経の歴史―中国・高麗篇』（シリーズ・アタラクシア 3）、東京：立正大学情報メディアセンター、2015 年。
参考文献	李富華・何梅『漢文仏教大蔵経研究』、北京：宗教文化出版社、2003 年。 李際寧『仏経版本』（中国版本文化叢書）、南京：江蘇古籍出版社、2002 年。 大蔵会編『大蔵経―成立と変遷―』、京都：百華苑、昭和 39 年（1964）。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	予習・復習と、積極的な授業参加が望まれる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２２０２４
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究　　４単位
時限	木曜日３時限目
担当教員氏名	藤井　教公　教授
授業題目	日蓮『立正安国論』講読
授業の目的・概要	日蓮（1222-1282）は歴史的、時代的意識の極めて強い仏教者であり、13 世紀当時の日本の社会情勢を憂えて鎌倉幕府へ建白書を提出した。その要は正法を建てて国家を安んずるということであるが、本講は日蓮が当時の天変地異や政治的社会的混乱の原因を何に求め、その対策にどのような事を提言したのか、ということを読み取り、日蓮独自の法華仏教思想の特質を考えたい。
到達目標	テキストとその注釈書を読んで、漢文訓読に慣れて習熟するとともに、その内容を受講者自身の努力によって十分に理解することを目標とする。
授業計画	前期の第 1 講から 5 講までを、日蓮の事跡、テキストの解説などに当てる。第 6 講から前期末までに、テキストの p.213 までを読み、後期に p.214 から最後の p.226 までを講読する。
授業の方法	テキストの輪読形式で行う。本書には参考書や解説書が多くあるので、受講者は各自それらを利用して授業に備えてもらいたい。コロナウイルス感染の状況によっては、対面式授業からオンライン方式に切り替える場合もありうる。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）にて通年で評価。オンラインの場合における課題提出も評価に加える。
テキスト	昭和定本『日蓮聖人遺文』第一巻と真蹟影印本とを使用。教場でコピーを配布する。
参考文献	教場で指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には 2 時間、復習には 2 時間の時間をかけること
履修上の注意	予習のうえ、出席励行のこと。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０２５
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習　　４単位
時限	木曜日３時限目
担当教員氏名	落合　俊典　教授
授業題目	『出要律儀』の研究―P.2196『出家人受菩薩戒法巻第一』と奈良写経『在家人布薩法巻第七』の本文読解―
授業の目的・概要	奈良写経本の『在家人布薩法巻第七』は重要文化財に指定されているが、全体の書名が不明であった。道宣の『四分律行事鈔』に「出要律儀曰く」とされている引用文がこの『在家人布薩法巻第七』に見られるので本書が『出要律儀』であることが判明した。 しかし、本書の本格的な紹介が成されていないのでこの説に疑義を抱く研究者もいる。本演習では解明に向けて丁寧な読解を行う。
到達目標	南朝の中国仏教界で成立した本書（『出要律儀』）は六朝時代に多用された十誦律を基礎として成立した文献であるが、不明な語彙が多く難解な書のひとつでもある。全体の本文を解明するのは容易でないが、一章だけでも踏破するのが到達目標である。
授業計画	夏学期 1.-3. ：南朝仏教史概論 4.-6. ：敦煌本の戒律書。 7.-10. ：ペリオ本『出家人受菩薩戒法巻第一』内題の意味。 11.-15 ：奈良写経本『在家人布薩法巻第七』内題の意味。 冬学期 1.-8. ：『在家人布薩法巻第七』序輪読 9.-14.：同２章輪読 15. ：まとめ
授業の方法	テキストを各自分担して読解し発表する。資料を提示し討論していく中で内容の理解に進む。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	ペリオ本（P.2196）『出家人受菩薩戒法巻第一』。神谷本『在家人布薩法巻第七』。
参考文献	諏訪義純『中国南朝仏教史の研究』（法藏館。1997 年） 鎌田茂雄『中国仏教史』全６巻（東大出版会）
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０２６
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習　　４単位
時限	金曜日４時限目
担当教員氏名	池　麗梅　教授
授業題目	東アジア仏教文献講読
授業の目的・概要	東アジア仏教文献の代表的なテキストを順次取りあげていくが、今年度は『大蔵経綱目指要録』を講読する。『大蔵経綱目指要録』は、北宋時代の禅僧惟白が作成した現存最古の漢文大蔵経の解題書であり、初期の開宝蔵の目録を復元する上で、不可欠な基礎的文献である。この授業は、同書のテキスト変遷、開宝蔵目録の復原、教禅一致という時代的・思想的背景などを総合的に検討することを目的とする。
到達目標	写本テキストの翻刻・校訂などの基礎訓練を行い、漢文の現代語訳に習熟し、テキスト内容を正確に理解した上で、的確な解釈もできるようになることを目標とする。
授業計画	夏学期 第 1-2 回　『大蔵経綱目指要録』の概説 第 3-14 回　「第二巻」講読 第 15 回　ディスカッション・総括 冬学期 第 1-2 回　復習と概説 第 3-14 回　「第八巻」講読 第 15 回　ディスカッション・総括
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻刻・校訂・現代語訳するだけではなく、内容の分析、その背後にある思想的背景を併せて考察する。
成績評価方法	平常点（出席率を含む）またはレポートにて通年で評価
テキスト	日本五山版本・中国国家図書館蔵宋代刻本『大蔵経綱目指要録』
参考文献	必要に応じて関連資料を配布して利用する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には２時間、復習には２時間の時間をかけること
履修上の注意	積極的な授業参加と活発な討論が期待される。担当者は発表原稿を人数分用意すること。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２２０２７
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習　　４単位
時限	木曜日４時限目
担当教員氏名	藤井　教公　教授
授業題目	『維摩経文疏』研究 2022
授業の目的・概要	本講は、天台智顗が晩年に晋王廣に献上するために著したとされる『維摩経文疏』を講読し、それによって智顗の教学思想を検討することを目的とする。本書は智顗の最晩年の思想を窺うことのできる重要な『維摩経』注釈書であるが、同じ智顗の『維摩経玄疏』や湛然『維摩経略疏』などに比べてこれまで余り顧みられておらず、国訳もまだない。したがってまず文献を正確に読み進めていくことが必要なので、国訳の訳注原稿を作成しながらその原稿の検討を行うことにしたい。
到達目標	テキストとその注釈書を読んで、漢文訓読に慣れて習熟するとともに、その内容を受講者自身の努力によって十分理解することを目標とする。
授業計画	初めての受講者がある場合、『維摩経文疏』についての概略を講義し、その後に受講者の原稿発表という形式で演習を行う。したがって受講者は予め分担を決め、一定の書式で原稿を作成し、授業の際にその原稿を検討し、訂正して確定校を作成する。それがある程度の分量に達したならば、本学の研究紀要などの媒体に発表することにしたい。本年度は 2021 年度の続き部分から講読する。 第 1～2 講　『維摩経文疏』の解題。 第 3～15 講　テキスト巻 5 の最初（491c）から 496a8 まで。 第 16～30 講 続き部分から 499c 末尾まで。
授業の方法	演習形式でテキストを講読する。ローテーションを決め、毎回の発表者は分担部分の原稿を作成し、教場でそれを発表する。発表原稿はその場で検討し、添削修正し、それを本講における受講者全員の共通理解とする。 コロナウイルス感染の状況によっては、授業の形態を対面式からオンライン方式に切り替える可能性もある。
成績評価方法	平常点（授業中の発表を中心に出席立を含む）にて通年で評価。 オンライン授業になった場合、課題提出状況も評価に加える。
テキスト	『新纂大日本続蔵経』巻 18 所収の『維摩経文疏』を使用する（コピーを教場にて配布）
参考文献	詳細は教場で指示するが、湛然の『維摩経略疏』は大正蔵テキスト第三十八巻から各自該当部分を複写しておくこと。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には３時間、復習には１時間の時間をかけること
履修上の注意	出席励行のこと。発表者は必ず原稿を用意し、クラス全員に配布すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０２８
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と生命倫理）　　２単位
時限	集中講義（夏学期）　※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山　泰弘　講師（前埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と生命思想
授業の目的・概要	人工授精や臓器移植など生命に関わる技術の進展は現代の生命科学の大きな達成であるが、それが人間生活にもたらす意味について、仏教との関わりにおいて把握するのがこの授業の目的である。はじめに仏教倫理の特質について思想史的な観点から検討を加え、さらに現代の倫理学の諸潮流との比較をおこなう。次いで現代の生命倫理をめぐる諸問題を検討しながら、仏教の生命観の理解を試みる。
到達目標	・生命倫理に関わる現実の諸問題が多岐にわたることと、それに対してさまざまな思想的アプローチが可能であることを理解する。 ・生命倫理の問題が仏教の中にどのように位置づけられるかについて、理解を深める。
授業計画	＜仏教倫理の位置と特徴＞ 1. 古代インドの共同体倫理と仏教倫理 2. 現代の倫理学と仏教倫理 3. 徳倫理と仏教 4. 無我・縁起説の倫理 5. 業・輪廻思想の倫理 6. 仏教の倫理徳目 ＜生命倫理と仏教＞ 7. 脳死 8. 臓器移植 9. 自殺の問題 10. 安楽死 11. 生殖補助医療技術 12. 受胎 13. 胎児 14. 世俗倫理と仏教 15. 生命倫理と仏教
授業の方法	上記授業計画の内容に従って、関連資料を配付して概略を説明し、討論を行いながら、知識を深めていく。討論のなかで新しいテーマが出てきたときは、関連する資料を追加準備して次の回で扱う。
成績評価方法	平常点にて各学期で評価
テキスト	毎回プリントを配布する。
参考文献	和辻哲郎『原始仏教の実践哲学』（和辻哲郎全集第５巻） Keown, Damien. : Buddhism and Bioethics. Palgrave 2001. 小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理』 ちくまプリマー新書 2011 年
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には１時間、復習には３時間の時間をかけること
履修上の注意	※コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインで授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２０２９
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と環境問題）　　２単位
時限	集中講義（冬学期）　※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山　泰弘　講師（前埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教と環境思想
授業の目的・概要	今日の地球温暖化や野生生物の絶滅などの問題は、環境問題を地球規模のスケールで考察しなければならないことを示している。この授業の目的は、環境問題について仏教の視点から検討を加えることであるが、はじめに現代の環境問題を概観し、この問題の背景にある科学主義的な思考について、思想史的な立場から批評を行う。次いで仏教の多様な自然観とそれを支える価値意識について理解を試み、現代の環境倫理に対する仏教の貢献について考える。
到達目標	・現実の環境問題が多様であること、及び環境問題に対してアプローチするときに価値論的な視点が重要であることを理解する。 ・現代の環境倫理が提起する諸問題について、仏教独自の価値意識を考慮しながら理解を深める。
授業計画	＜環境問題と環境倫理＞ 1. 環境倫理の諸問題 2. 公害病 3. 地球環境問題 4. 放射能汚染 ＜科学技術の性格＞ 5. 科学と価値 6. 科学と技術 7. 科学技術の変貌 ＜仏教の自然観＞ 8. 自然観の諸相 9. 古代インドの自然観 10. 不殺生 11. 植物 12. 仏性 13. 自然の価値（１）：理論的側面 14. 自然の価値（２）：実践的側面 15. 環境倫理と仏教思想
授業の方法	授業は、上に述べた幾つかの大きなテーマに関連する資料を紹介してその概略を説明し、出席者の間で意見を交換しながらより個別のテーマに絞り込み知識を深めるという方法をとる。
成績評価方法	平常点にて各学期で評価
テキスト	毎回プリントを配布する。
参考文献	唐木順三『「科学者の社会的責任」についての覚え書』ちくま学芸文庫 2012年（1980年） 島薗進『原発と放射線被ばくの科学と倫理』専修大学出版局 2019. 阪本(後藤)純子 『生命エネルギー循環の思想 ― 「輪廻と業」理論の起源と形成―』 RINDAS 24, 2015 年 原実「不殺生考」国際仏教学大学院大学研究紀要 1（1998）pp. 1-37. Schmithausen, Lambert : Buddhism and Nature, Studia Philologica Buddhica Occasional Paper Series VII, The International Institute for Buddhist Studies of the International College for Advanced Buddhist Studies, Tokyo, 2003.
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には１時間、復習には３時間の時間をかけること
履修上の注意	※コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインで授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

関連科目

科目番号	２２０３０
科目名・単位数	文化人類学　　４単位
時限	火曜日２時限目
担当教員氏名	棚橋　訓　講師（お茶の水女子大学教授）
授業題目	文化人類学の視点から宗教について考える
授業の目的・概要	仏教を含む宗教の存在は社会科学においても重要な検討課題であり続けている。本講では、社会科学の一翼を担う文化人類学における宗教研究に焦点を当てて授業を進める。夏学期は文化人類学の諸理論を学び、理論諸派の観点の相違に起因する宗教分析の多様性について俯瞰する。冬学期は文化人類学とその関連領域において蓄積されてきた宗教に関する先行研究の精読と再検討を通じて、文化人類学の視点から宗教を考えるための理論枠組みと思考法についての理解を深めていく。
到達目標	受講者には、文化人類学を一つの例示として、社会科学の視点から成される宗教研究の理論と方法について知り、そうした理論と方法を用いて実証的に相対化して考える技法を身に着けてもらうことを目標とする。
授業計画	【夏学期】 ①　授業ガイダンス、社会科学と文化人類学：概観 ②　文化進化論と宗教概念 ③　文化伝播論と宗教研究 ④　歴史個別主義・文化相対主義と宗教研究 ⑤　フランス社会学＝民族学と宗教研究 ⑥　機能主義・構造機能主義と宗教研究 ⑦　文化の型、文化とパーソナリティ：文化論と宗教研究 ⑧　新進化主義の宗教研究 ⑨　生態人類学と宗教研究 ⑩　構造主義人類学と宗教研究 ⑪　象徴人類学と宗教研究 ⑫　解釈人類学と宗教研究 ⑬　マルクス主義人類学と宗教研究 ⑭　エスニシティ研究・ナショナリズム研究と宗教研究 ⑮　実践理論と宗教研究 【冬学期】 ① アニミズム ② 儒教 ③ ヒンドゥー教 ④ 仏教 ⑤ キリスト教 ⑥ イスラーム ⑦ 日常を生きるということ（通過儀礼、祖先祭祀、霊魂観） ⑧ 祝うということ（集合的激昂、反構造、コミュニタス） ⑨ 祀るということ（民間信仰、シンクレティズム） ⑩ 呪うということ（呪術、邪術、妖術） ⑪ 病むということ（治癒、病因論、災因論、プラシーボ） ⑫ 語るということ（神話、口承、書承） ⑬ 分け隔てるということ（ジェンダー、境界、浄不浄） ⑭ 魅了するということ（王権、聖者、巡礼） ⑮ 抗うということ（権力、抵抗、サバルタン）

授業の方法	夏学期・冬学期ともに講義・講読・個人発表・議論を柱に、講義と演習を折衷したかたちで進めていくが、夏学期は講義と議論を主軸に、冬学期は講読・個人発表と議論を主軸とする。授業各回は授業計画に記したトピックに錨を下ろして進めるが、博士後期課程の授業であることから、受講者の専門領域・要望に応じて柔軟に各回のトピックにおいて授業内容は幅を広げていきたいと考えている。詳細については初回講義時の授業ガイダンスで触れる。
成績評価方法	平常点およびレポートにて通年で評価。
テキスト	夏学期は岸上伸啓（編著）『はじめて学ぶ文化人類学―人物・古典・名著からの誘い』（ミネルヴァ書房、2018 年）、冬学期は関一敏・大塚和夫（編著）『宗教人類学入門』（弘文堂、2004 年、品切れのため棚橋が手配）を基本テキストとし、随時、専門論文を追加配付する。
参考文献	佐々木宏幹『宗教人類学』（講談社学術文庫、1995 年）、大塚和夫『近代・イスラームの人類学』（東京大学出版会、2000 年）、吉田匡興・石井美保・花渕馨也（編著）『宗教の人類学』（春風社、2010 年）、長谷千代子・別所裕介・川口幸大・藤本透子 (編著)『宗教性の人類学―近代の果てに、人は何を願うのか』（法蔵館、2021 年）
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習に 3 時間、復習に 2 時間の時間をかけること。
履修上の注意	※コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインで授業を 行うことがあります。
連絡方法	質問、面談希望等は授業時に申し出るか、以下のメールアドレス宛てに連絡のこと。 tanahashi.satoshi@ocha.ac.jp

仏教学特殊研究

科目番号	２２１０１
科目名	仏教学特殊研究
時限	水曜日３時限目（夏学期）
担当教員氏名	代表者：　藤井　教公　教授 落合　俊典　教授　　斉藤　　明　教授 池　　麗梅　教授　　デレアヌ　フロリン　教授 幅田　裕美　教授　　藤井　教公　教授 齋藤　智寛　講師（東北大学教授　４月２７日担当） 一色　大悟　講師（東京大学助教　７月　６日担当）
授業の目的・概要	本学教員、並びに外部講師と受講者の学生諸君が、現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマ、トピックについて研究発表し、それについて全員による質疑応答を行う。その討議を通じて各人が仏教に対する知見を深めることを授業の目的とする。またこの授業を学生諸君にとっての学会発表、論文作成の訓練の場とする。
到達目標	学生諸君が自ら発表し、あるいは他の受講者の発表を聞いて、研究発表に慣れるとともに、自身の発表の態度や技術などの向上を目指す。また、仏教学上の諸問題について知見を広め、深い理解に達することを目標とする。
授業計画	初回の時に、教員、学生ともに発表の順番と日程を決め、各自一時間内外を持ち時間として、全体で質疑応答、討論を行う。
授業の方法	初回の授業の時に予め発表者を決める。発表予定者は配付資料などを各自が用意してパワーポイント、スライド、紙資料など、各自それぞれの方法を用いて発表する。
成績評価方法	履修単位は設定されていない。
テキスト	発表担当者が各自用意し、配布する。
参考文献	発表担当者がその都度指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	事前に発表資料やテーマが明らかになっている場合、予習には１時間程度、復習には１時間程度の時間をかけること。
履修上の注意	全学生は目的意識をもって必ず参加すること。 コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	２２１０２
科目名	仏教学特殊研究
時限	水曜日３時限目（冬学期）
担当教員氏名	代表者：　斉藤　　明　教授 落合　俊典　教授　　斉藤　　明　教授 池　　麗梅　教授　　デレアヌ　フロリン　教授 幅田　裕美　教授　　藤井　教公　教授 金　　炳坤　講師（身延山大学教授　１０月１２日担当） 小野　　基　講師（筑波大学教授　　１１月　２日担当） 八尾　　史　講師（駒澤大学専任講師　１１月２４日担当） 林寺　正俊　講師（北海道大学准教授　　２月　８日担当）
授業の目的・概要	本学教員、外部講師、ならびに学生が、現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマについて発表を行い、質疑応答と討論を通じて、仏教学に関する知見を深めることを目的とする。同時にまた、論文作成および学会発表の訓練の場として重要な意義をもつ。
到達目標	学生諸氏が研究発表に慣れるとともに、仏教学上の諸問題に関する知見を広め、理解を深めることを目標とする。
授業計画	初回の授業で、教員および学生が発表の順番と日時を決め、順次、現在取り組んでいる研究テーマに関する発表を行う。
授業の方法	発表者はパワーポイント、スライド、配布資料などを用い、一時間程度を持ち時間として発表を行う。その上で、出席者全員による質疑応答と討論を行う。
成績評価方法	履修単位は設定されていない。
テキスト	各回、発表担当者がレジメを用意し、配付する
参考文献	必要に応じて発表担当者が指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	必要に応じて予習には１時間程度、復習には１時間程度の時間をかけること。
履修上の注意	全学生は、目的意識をもって必ず参加すること。 コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

留学生のための日本語

科目番号	２２１０３
科目名・単位数	日本語Ⅰ　４単位
時限	火曜日２時限目・金曜日２時限目
担当教員氏名	宮田　聖子　講師（東京工業大学非常勤講師）
授業題目	初級・中級前期の日本語　　－初級文型とその応用－
授業の目的・概要	日本語レベル初級及び中級初期（学習時間 0～400 時間未満）の学生を対象に行う。 日本語の基本構造を習得し、四技能（話す・聞く・読む・書く）を養う活動へ発展させる。自分の意見をまとめ発表する力を身につける。 日常生活や学内での基本的な活動が問題なく行える日本語コミュニケーション能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験N2 レベル程度の日本語の力の獲得
授業計画	夏学期 第 1 週～第 4 週 初級文型・「話す・聞く」技能 第 5 週～第 8 週 初級文型・「読む・書く」技能 第 9 週、第 10 週 初級文型・四技能 第 11 週～第 15 週 中級文型・四技能 冬学期 第 1 週～第 3 週 中級文型・四技能 第 4 週～第 7 週 総合・読解・論述 第 8 週～第 13 週 総合・読解・論述 第 14 週、第 15 週 総合・プレゼンテーション
授業の方法	テキストを使用し、初級前半においては、予習確認の小クイズ、文法の学習、応用練習を行う。読解の授業では語彙クイズ、読解、文法確認、討論、作文、発表の順に行う。また、毎回宿題を課す。
成績評価方法	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
テキスト	受講生の日本語レベルに応じて決定する。
参考文献	『みんなの日本語初級Ⅰ，Ⅱ』スリーエーネットワーク　各国語版文法解説 『TRY!　日本語能力試験 N3 文法から伸ばす日本語』アスク出版
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習に 2 時間程度、復習に 2 時間程度の時間をかけること
履修上の注意	出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	２２１０４
科目名・単位数	日本語Ⅱ　４単位
時限	火曜日３時限目
担当教員氏名	宮田　聖子　講師（東京工業大学非常勤講師）
授業題目	中級後期・上級の日本語　　－学術的活動へ－
授業の目的・概要	日本語レベル中級後半（初級基礎文型の習得が終了しており、学習時間が概ね 450 時間程度）以上の学生を対象に行う。 学術論文の読解ストラテジーを獲得する。また、討論、論評する活動を通してテーマについて論述するスキルと、それを口頭発表するプレゼンテーションスキルを養う。 日本語能力試験に向けて総合的なスキルを伸ばす。 日本での研究活動が十分に行えるより高度な日本語能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験Ｎ1 レベル程度の日本語力の獲得
授業計画	夏学期 第 1 回～第 7 回 文法 第 8 回～第 15 回 読解・能力試験対策 冬学期 第 1 回～第 7 回 能力試験対策 第 8 回～第 12 回 作文指導 第 13 回～第 15 回 プレゼンテーション指導
授業の方法	テキストを使用し、日本語能力試験対策、読解、文法事項確認、討論、作文を行う。
成績評価方法	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
テキスト	受講生のレベルに応じて決定する。
参考文献	『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版、 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク 『上級日本語学習者対象　アカデミックライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習に 2 時間程度、復習に 2 時間程度の時間をかけること
履修上の注意	出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

留学生のための古文・漢文読解

科目番号	２２１０５
科目名・単位数	古文・漢文読解Ⅰ　４単位
時限	水曜日４時限目
担当教員氏名	田戸　大智　講師（早稲田大学非常勤講師）
授業題目	仏教漢文読解入門
授業の目的・概要	仏教では後漢の頃より仏典の漢訳が開始され、多くの漢訳仏典やそれにもとづく註釈書などが生み出された。仏教思想を解明するためには、正確な読解が要求されることは贅言を要しない。 本講義では、伝統的な訓読法を用いて、仏教漢文が読解できるようになることを目的としている。日本では漢文を日本語で解釈するための訓読法が体系化され、仏教漢文もまたこの方法によって理解されてきた。訓読法を習得すれば、文法構造を把握する能力が高まり、感覚的に読むことで起きる間違いを防止できる利点がある。特に日本仏教研究を行うためには、訓読法を習得することが必須である。 そこで、訓読による仏教漢文の読解を修練していくために、前期ではまず、テキストにもとづいて基本文法を確認する。次に後期では基本文法を適宜参照しながら、様々な仏教漢文を取り上げ、実践的に訓読法を学習していきたい。後期では、経典や論書、中国の伝記史料、日本の仏教漢文などを読み進めていく予定である。
到達目標	日本の凝然（1240～1321）が撰述した『八宗綱要』上下2巻（大日本仏教全書3所収）を訓読できる能力の修得を到達すべき目標としたい。
授業計画	前期 1　ガイダンス、訓読の必要性 2~3　仏教漢文の学習方法、漢和辞典・仏教辞典の使用法と実習 4~5　テキストとプリントの実習（1～3章） 6~7　テキストとプリントの実習（4～5章） 8~9　テキストとプリントの実習（6～7章） 10~11 テキストとプリントの実習（8～9章） 12~13 テキストとプリントの実習（10～11章） 14~15 テキストとプリントの実習（12～14章） 後期 1　ガイダンス 2~3　『法苑珠林』・『父母恩重経』 4~5　『弥勒上生経』・『大智度論』 6~7　『理惑論』・『沙門不敬王者論』 8~9　慧皎『高僧伝』・道宣『集神州三宝感通録』 10~11　一行『大日経義釈』・曇鸞『浄土論註』 12~13　法藏『華厳五教章』・基『大乗法苑義林章』 14~15　諦観『天台四教義』・凝然『八宗綱要』など
授業の方法	毎回配付する資料にしたがって授業を進める。漢文はすべてノートに書き写し、返り点を付したり書き下し文に直す作業を繰り返し行う。また声に出して読むことで漢文のリズムを習得する。語彙が不明である場合は、常に漢和辞典や仏教辞典で調べるよう訓練する。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	『句形演習　新・漢文の基本ノート〈二色刷〉』（日栄社、1998）を主なテキストとし、『新・要説文語文法〈五訂新版〉』（日栄社、2015）も必携とする。この他、プリントを配付する。
参考文献	加地伸行『漢文法基礎－本当にわかる漢文入門－』（講談社学術文庫、2010）、金岡照光『仏教漢文の読み方』（春秋社、1978）、木村清孝編著

	『仏教漢文読本』（春秋社、1990）、その他、各辞典などは教場にて指示する。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	講義で配付した資料は、予習と復習を通して繰り返し読み込むことが実力の向上につながる。訓読の基本文法はテキストを適宜参照して解説するが、演習問題は各自復習して頂きたい。予習には 120 分、復習には 120 分の時間をかけること
履修上の注意	①授業では漢文訓読を実習形式で行うので、専用ノートを準備して予習と復習を必ず行う。 ②電子辞書や電子機器類の使用は禁ずる。語彙は必ず辞書で調べるようにする。 ③「古文・漢文読解Ⅱ」の講義を併せて聴講することが望ましい。
連絡方法	メール（初回の授業で確認する）

科目番号	２２１０６
科目名・単位数	古文・漢文読解Ⅱ　　４単位
時限	水曜日５時限目
担当教員氏名	小島　裕子　講師（早稲田大学非常勤講師）
授業題目	仏典訓読初学講座
授業の目的・概要	仏典の漢文は記載言語として表わされた古典語（文語）で、たとい現代中国語を母国語として自在に使用しているとしても、その特殊な文章構造の分析を介した完全な理解という点では次元を異にしよう。こと日本においては、漢字文化の受容とともに、その言語表記を享受するため、日本語によって漢文の文章構造を分析し、正確に文意を解釈するための学問が古来より培われてきた。「訓読」である。 本講座は、漢文訓読のなかでも、特に寺院文化圏における学僧が行ってきた仏典訓読の学問を視野に入れ、とりわけ学ぶ機会の稀な「漢訳仏典に対する伝統的な訓読法」の習得をめざす。特に、漢文を訓読し、内容を理解する上で必要な、基礎としての「古典文法（文語）」の解説に重点を置いて授業を行う。 仏教辞典における要語解説の表記を読み解きながら、解説に引用された典拠となる仏典の当該箇所を確認し、実例文献に基づく訓読法（訓点を付して訓読する方法）を教授する。またこれに併行して、訓読に有用な主要辞典（仏教系・国語系）の使用方法について教示したり、訓読に対する理解を深めるための「日本語表記の変遷」などにも言及したりすることで、文献資料学を究める受講者各自の研究の将来に資する講義でありたい。
到達目標	貴重な仏教文献資料を詳細に読み解いてゆくために必要とされる日本語表記の習得、各種仏教辞典の特徴を把握し、要語項目を読解して実際の研究に生かす能力を身につけることをめざす。 漢文の白文に訓点を付す方法を習得して実践に備え、併せて仏教に関連する文献を〈声に出して読める力〉も養いたい。
授業計画	《夏学期》 1 初回に授業の指針を述べる。「望月仏教大辞典」から要語を選び、引用された漢文の訓読体を正しい文法理解によって読むことができるか、また旧漢字の表記に対応できるかなどの問題定義を行ない、以後の具体的な授業に臨む姿勢を確認する。 2「訓読」という学問① 大正新脩大蔵経の漢訳仏典に対する国訳一切経・国訳大蔵経・新国訳大蔵経・仏典講座等の紹介、解説。 3「訓読」という学問② 具体的に学僧が訓点を付した写本・版本を紹介し、「訓読」とは何かを学ぶ意識を備える。 4 自ら「訓読」を行うために必要な主たる仏教学系辞典、および国語学系辞典の紹介を行なった上で、活用の実践に入る。 以下、5 回より演習と講義

	5-9　仏典に頻出する【「動詞活用表」作成プロジェクト】 義浄訳『金光明最勝王経』を訓読法習得のための底本に据え、各品の訓読箇所の動詞を抽出、訓読の仕方について実際に辞書を引きながら学び、活用法を詳細な文法の解説を通して習得する。以下、動詞表は講義で遇した諸経典内の動詞についても随時書き込みを加え、年間を通して完成。 10-12　仏典に頻出する仮定表現について、動詞の活用の型を徹底的に学び、それに伴う助動詞も同時に習得する。 13-15　仏典に頻出する受身・使役などの助動詞の様々な事例・訓読、および関連の文法を習得する。 《冬学期》 16-17　仏典の型「六時成就（如是・我聞・一時・佛・在某所・与某衆倶）」、「白佛言」、「白～曰」などを学ぶ。 18　仏典に頻出する副詞（否定・時間・範囲・程度・状態・語気）について概論的な講義を行い、以後の講義に備える。 19-21 仏典に頻出する「否定副詞」事例・訓読、関連の文法 22-24 仏典に頻出する「時間副詞」事例・訓読、関連の文法 25-27 仏典に頻出する「程度副詞」事例・訓読、関連の文法 28-29 仏典に頻出する「状態副詞」事例・訓読、関連の文法 30　年度内総括　今年度の「動詞活用表」の完成 「仏典に頻出する表現」について、毎回、様々な仏典から具体的な要文の事例を挙げ、前半でその漢文訓読と訓読に伴う文法の要点を解説、後半で当該箇所を含む実際の仏典を一覧し、要文の周辺部を含めた訓読の演習を行う。
授業の方法	講義と演習（習熟のための練習）を繰り返すことで、受講者のリテラシーの向上をはかる。 年間を通して、一般古典の文法書に挙がる用例では不十分な「仏典に頻出する動詞」について、その活用と仮名訓を一覧できる独自の【「動詞活用表」作成プロジェクト】を受講生とともに遂行、当該教室における成果として構築してゆく。表の作成は文字の記入のみに止まらず、声に出して復唱する実践を伴うことで、記憶的な効果へと繋ぐ。
成績評価方法	平常点にて通年で評価。
テキスト	望月信亨『仏教大辞典』の要語項目の複写を主要テキストとして配布する。加えて仏典資料などを配布する。文語文法の解説書として『新・要説文語文法〈五訂新版〉』（日栄社）、辞書として『新版古語辞典〈机上用〉』（角川書店）を各自の必携とする。
参考文献	中村元『仏教語大辞典』、望月信亨『仏教大辞典』、織田得能『仏教大辞典』、宇井伯壽『仏教辞典』、『日本仏教語辞典』（岩本裕）ほか各種仏教辞典。『日本国語大辞典〈第二版〉』（小学館）、『日本語文法大辞典』（明治書院）、『新大字典〈普及版〉』（講談社）、『漢字源〈改訂第五版〉』（学研）など各種国語辞典。上記以外の辞典についても、講義時に随時、紹介してゆく。
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	各自、毎回の講義で配布する参考資料をファイリングし、受講前の予習として必ず目を通した上で授業に参加すること。蓄積されゆく資料を重ねて通読することを通して、次第に理解は深まる。 受講後は必ず授業内容を反芻し、次回の授業に備えること。準備学習として、予習に 120 分、復習に 120 分程度の時間を要する。
履修上の注意	本講座は、仏教文献資料学を遂行するために必要な基礎を学ぶ留学生の読み書き、リテラシーの向上をめざして開設する。日本語習得のステップを踏みながらの受講であることを配慮し、説明などは懇切に行ってゆくことを心がけるが、基礎を修めるということにおいて、日本語を母国語とする者と何らレベルの上で変わらぬ有益な内容を提示することを断っておきたい。 継続履修の意義を念頭に、毎回の講義で具体的に訓読する仏典の文例は常に新規を提示してゆく。併設される「古文・漢文読解Ⅰ」とともに受講することが望ましい。
連絡方法	初回の授業で説明する。

未修者のためのサンスクリット語

科目番号	２２１０７
科目名・単位数	サンスクリット語　　４単位
時限	月曜日３時限目
担当教員氏名	宮本　久義　講師（元東洋大学教授）
授業題目	サンスクリット語入門
授業の目的・概要	サンスクリット語の文法を学習し、インド哲学仏教学文献の読解力を身につけることを目的とする。サンスクリット語はインドの文学、思想、宗教を育み、サンスクリット文化という言葉があるように、インド人が構築した有形・無形の価値観の理解に必須の言語である。インドではサンスクリット語の習得には三生かかるといわれている。これは大分誇張されたことばではあるが、実際文法規則が多いのは事実である。しかし、他の言語と同様、覚える規則は最小限に絞り、系統立てて学習することにより、十分習得可能な言語である。本講は初学者のために開講するが、復習のために参加したいという受講生も対象とする。
到達目標	サンスクリット文法の基礎を習得し、文法書と辞書を使用して各自が研究対象とする文献を研究する際の読解力を養うことを目標とする。
授業計画	夏学期 第 1 回：インドの言語について 第 2～3 回：文字と発音 第 4 回：母音の階梯、絶対語末 第 5～7 回：連声法 第 8～10 回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹 第 11～13 回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹以外の語幹 第 14～15 回：代名詞、数詞 冬学期 第 1 回：動詞の概要 第 2～5 回：第 1 次活用法（現在・アオリスト・完了・未来） 第 6～8 回：第 2 次活用法（受動・使役） 第 9～11 回：準動詞（過去分詞など） 第 12～13 回： 複合語 第 14 回：韻律 第 15 回：総括
授業の方法	長柄行光著『サンスクリット文法』に従って解説する。補足すべき点があれば、資料を配布する。文法事項解説の進み方に合わせて、練習問題にも取り組んでもらう。
成績評価方法	平常点にて通年で評価
テキスト	長柄行光著『サンスクリット文法』2002 年。私家版（非売品）なので、受講生にはこちらで配布する。
参考文献	Charles Rockwell Lanman, *A Sanskrit Reader: Text and Vocabulary and Notes,* Harvard University Press, 1884.（リプリント版が廉価で入手可能） 辻直四郎『サンスクリット文学史』岩波全書、1973 年
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習・復習ともに 120 分程度の時間をかけてほしい
履修上の注意	文法の学習において、予習はその日の授業で何を学ぶのかを予め把握しておく作業である。それゆえ長い時間をかける必要はないが、わからない点を押さえておくことが肝要。いっぽう、復習は習ったことが文法規則全体のどの部分を構成するのかをしっかりと押さえ、さらに最小限暗記すべき規則を暗記する努力をしなければならないので、十分な時間をかけることが望ましい。また語学習得という授業の性質上、欠席はできる限りしないように。受講生は疑問点が残らないように、何度でも質問していただきたい。 ※コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインで授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

未修者のためのチベット語

科目番号	２２１０８
科目名・単位数	古典チベット語　　４単位
時限	金曜日４時限目
担当教員氏名	斉藤　　明　教授
授業題目	古典チベット語入門
授業の目的・概要	チベット語には大別して、およそ 8 世紀以降の文献や碑文に記された文語と、現在の中国チベット自治区およびその周辺諸省、ならびにネパール、ブータン、インド等の中国以外の地で話される口語とがある。ここにいう「古典」チベット語とは、主に 8 世紀から 18 世紀頃までの仏典を中心とする諸文献・碑文が用いるチベット文語をさす。授業では、この古典チベット語文法を講義し、受講者がチベット人の撰述文献とともに、チベット語翻訳仏典を読むための基礎力を養うことを目的とする。
到達目標	古典チベット語文法の基礎を学び、チベット撰述文献および翻訳仏典を読むための、的確な読解力を得ることを目標とする。
授業計画	夏学期 1-2 導入と序論　古典チベット語とは何か。チベット語の文字と文法。仏典チベット語訳の特性、辞書と文法書他。 3-15 チベット語古典文法 冬学期 1-15 選文講読（『法華経』『般若心経』『中論』『廻諍論』『六十頌如理論』他を部分講読）
授業の方法	講義を中心とし、部分的に資料を配布して講読を行う。参考文献ならびに関連研究は授業の中で紹介する。
成績評価方法	平常点およびレポートにより、通年で評価。
テキスト	Michael Hahn (tr. and rev. by U. Pagel), *Textbook of Classical Literary Tibetan*, London, 2002 をプリント配布して利用する。
参考文献	・星泉『古典チベット語文法―『王統明鏡史』(14 世紀)に基づいて―』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2016. ・山口瑞鳳『概説チベット語文典』春秋社, 2002.
準備学習（予習・復習等）に必要な時間等	予習には４時間、復習には１時間の時間をかけること
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。